

平成 29 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

日吉本町地域ケアプラザ

■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、事業実績評価との共通部分

1 全事業共通

(1) 地域の現状と課題について

日吉地区は長年にわたり地域の活性化のために熱心に取り組んでこられた団体や個人の方が多数存在する地域で、そういった団体、個人の方々は日吉という町に大変愛着を持って生活をされ、地域づくりに励んでこられたという歴史があります。一方で近年、大規模な集合住宅（マンション等）や戸建ての住宅が、日吉地区広域に建ち並び、地域としての利便性からも、他地区から移住される若い世帯、子育て世代の増加が続いています。

それに伴い、育児活動や青少年活動が年々活発化し、その流れとともに日吉本町地域ケアプラザにおいても、若い世代の貸館利用者が中高年から高齢世代の利用を上回っています。

そういった地域の状況において、2025年問題に向け、高齢者を地域で支える仕組みづくりや社会資源の開発が急務となっているなか、地域が主体となる新たな活動が自発的に始まった地域もありました。また緩やかではありますが、団塊の世代の方々が地域で活動をスタートさせるきっかけとなる活動も芽生えてきています。

(2) 総合相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

地域の相談窓口として認知されつつあり、様々な世代の方から多様な相談を受け、その件数も年々増加しています。しかし高齢者に関する相談の比率が依然として高いのが現状であるとともに、支援を受ける当事者だけでなく、その子ども、さらに孫世代まで関連付けた総合的な支援を行いました。

子どもや障害分野に関しては、分野ごとに自主事業等を展開していく中、気軽に相談できる場所であることをアピールしました。

例えば短時間の相談でも丁寧に応対し、かつ的確な支援ができるよう、日頃の情報収集と知識の獲得に努めました。また各種制度（介護、障害、生活保護、後見など）の把握、各分野における専門機関との協働と専門職とのネットワークづくりなどに積極的に取り組みました。

(3) 各事業の連携

各部門が連携し、地域の情報・課題の共有に努め、解決に向けた取組みを様々な視点から検討できるようリーダー会議や職員会議を有効活用し、良質でスムーズな所内連携を図りました。ひとつの事業に対して、企画する段階から開催に到るまで、それぞれの担当者が役割を分担し、協働、共催事業として取り組むことで、部門の負担を軽減するだけでなく、関連事業や日常業務においても協力し合える体制を構築しました。

それぞれの部門が持つ機能や情報（地域・個別ニーズなど）を有効に活用・共有し、より地域の方、参加者の立場に立った事業を継続的に実施することが出来ました。

(4) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

年度途中より包括支援センターの職員が産休により一時欠員となった以外は、適正な人員配置のもと運営することが出来ました。

職員それぞれのキャリアに応じた研修体制（新任研修、基礎スキルリピート研修、内部指導型研修、外部研修による専門研修受講など）のもと、資格の取得に向けたサポート、所持資格のさらなる質の向上をサポートしました。また研修費用だけでなく資格更新に係る費用なども施設側で負担することや職員が自主的に参加したい研修への支援など、さらなる学習意欲の向上を図り、職員個々のまた施設全体のスキルアップに取り組みました。

人材不足とされている介護職に関しては、経験や資格を有していなくとも、介護に興味があり、意欲的な人材であれば採用し、現場で一から知識と技術を身に着けながら、自信と資格を同時に体得していられるようサポートしました。

内部研修の運営方法として、部門から研修委員を選出し、年間を通して研修計画の作成や研修資料の作成を行い、研修の充実と研修機会の効率化を図りました。

法人全体としても事業所の枠を超えた介護職員向け研修、ケアマネジャーを中心としたミーティング、情報交換会などを開催し、同法人で他事業所の職員との交流から専門職としての視野を広げるとともに、知識向上の機会を継続して作っています。

福祉保健活動拠点であるケアプラザの立場を自覚し、地域の方に安心してご利用頂くためには信頼性と透明性を第一に考え、誰に対しても偏見や差別なく公平中立な対応を致しました。また施設利用（貸し館）に関しても同様に、特定の団体や個人を優遇したり、便宜を図ったりすることはせず、日ごろから地域におけるケアプラザの目的や役割を周知するとともに、地域との良好な関係を継続できるよう努めました。職員全体に対し公的な施設であること、それに伴う業務を行なっている自覚を常に高く持つよう指導しました。特に介護保険制度におけるケアマネジメントに携わる包括支援センター職員やケアマネジャーに対しては、公正中立な立場として業務を行なうよう指導しています。

(5) 地域福祉保健のネットワーク構築

日吉地区は5つの民生委員児童委員協議会エリアに分かれており、その地区ごとに特色があることから、地区それぞれのネットワークへの働きかけに努めました。

ケアプラザ開所当初から地域におけるネットワーク構築のきっかけとなった特徴的な事業の一つでもある地域の関係機関との共催事業「出張ミニ講座（相談会）」の開催を継続しました。そういった関連団体、関係機関との関係をより深めるための活動（関連団体定例会への出席、協働事業の開催など）を積極的に展開し、地域におけるネットワークをさらに強め、地域力の向上を目指しました。特に各地区の民生委員児童委

員協議会の定例会には定例業務として出席し、地域情報・課題の共有に努め、より強固なネットワーク構築に努めました。

また、地域ケア会議（個別レベル・包括レベル）では、地域と専門職とを繋ぐ場として様々な関係者が顔の見える関係が構築され、それが個別支援、さらに地域支援へと発展していかれるように、同じ地区で活動する下田地域ケアプラザとも協働し、進めています。

(6) 区行政との協働

第3期地域福祉保健計画（計画期間28年度～32年度）「ひっとプラン港北」の計画推進を中心に、地域の現状把握に努め、課題については解決に向けた取組み支援を区行政と協働し進めました。民生委員児童委員協議会エリアごとに実施している各町ケア委員会の定例会に地区担当と一緒に出席することで、現場レベルでの率直な意見の聴取に努め、共通テーマである「防災から福祉を考える」活動として、特に〔高齢者支援〕〔障がい児・者支援〕〔子育て支援〕〔ボランティア発掘・育成〕の動向を、区行政職員とともに見守り、ひっとプランの目指すべき、ひろがる・つながる・とどくの実現に向けた支援を推進しました。

地域福祉保健計画への取り組みだけに限らず、様々な事業に関する意識統一、情報の共有の場として、月1回「定例ケアカンファレンス」を開催することで相互の業務連携の強化に繋がりました。

また職種（所長・包括・地域交流・生活支援）ごとには月1回区域にて分科会を開催し、現状・課題等の情報共有だけではなく、様々な事業（講座の開催、ケアマネジャー支援、認知症対策、虐待防止対策、地域ネットワークの構築など）への取り組みなどを区行政・区社会福祉協議会とともに協働し、継続的に検討する機会を持ちました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

子育て、障がい児・者、高齢関連と幅広い対象者を意識して、継続的に事業を展開しました。また、様々な発想を大切に、横の繋がりも強化するため関係機関・関連団体が実施している場にも出向き参考にさせてもらう機会も多く持ちました。

子育て事業も関係機関と協働し、新たな事業も開催しました。

また当ケアプラザ自主事業後も継続的・発展的な活動となるように後方支援に努めました。障がい児・者の余暇支援は、放課後等デイサービスが地域に増え、内容が同じ様なものにならないように、役割の差別化を図りました。

そういった事からも、自主企画事業が単調となりマンネリ化しないように、新たな事業にも積極的に取り組みました。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

貸し館を利用されている活動団体（福祉保健活動・支援団体）には、ケアプラザ自主事業への協力の機会、介護保険事業（デイサービス）において活動披露する場を提供することで、地域との繋がりや地域活動の活性化を図りました。

特にプラザ文化祭では、カラオケ団体には場を盛上げて一緒に歌ってもらうなど、各団体にはプログラム作りにも関わってもらいました。

情報ラウンジに掲示している予約状況確認シート（3ヶ月先分）や当ケアプラザホームページにおいて貸館空き状況をスマートフォンでも閲覧できるよう変更し、活動の場をスムーズに提供できるようにしました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

港北区社会福祉協議会との協働による、新たな人材の発掘・育成は不十分でした。日吉地区社会福祉協議会のボランティア会の担い手不足の解消と、活性化については、地域ケア会議（包括レベル）においてテーマに挙げた「団塊世代の地域デビュー」に合わせ、重点的に取り組んでいくこととなりました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

福祉保健活動団体に2月中に福祉保健活動記録の提出を依頼し、活動状況の把握をするとともに、他団体に紹介することで啓発活動を強化するため、利用者説明会にて周知する機会を設けました。

情報提供については、ボランティア活動を具体的に掲示しましたが、思った以上の成果には繋がりませんでした。掲示と合わせて個別に貸館利用時に利用団体に声を掛け、福祉保健活動に繋げるよう継続的に働きかけました。

メインの電子媒体をブログからホームページに移行し、スマートフォンからの利用を可能としました。

電子媒体の活用も検討し、地域のネット新聞に広報紙を載せ幅広い層に対しての情報提供と紙媒体であるプラザ広報紙も毎月発行し、自治会町内会の回覧・掲示板、事業内容によっては保育園、子育て広場なども活用させてもらい、事業等の周知を継続的に行いました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

日吉地区は港北区内でも面積・人口ともに大きな地区のひとつであり、地域アセスメント結果を通して、優先的に取り組むべき自治会町内会を決めて支援方針を定めて活動を支援しました。

区役所・区社協の地区担当職員とも連携し、毎月実施している定例ケアカンファレンスを有効活用し、情報・課題共有に努め、支援方針について確認をしてきました。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

インフォーマルサービスを「通いの場」と「訪問型」に大きく分別し、地域アセスメントをしました。また、人口・高齢化率・介護認定率等の動向を分析し、基準日（10/1）として更新作業し、関係機関にて共有しました。

総合相談票から見える地域という視点で個別支援から地域支援という具体的な取組みは実施することができず、次年度以降への引継ぎ事項となりました。

(3) 連携・協議の場

認知症カフェ準備委員会を連携・協議の場に位置付け、平成 29 年度に計 3 回の独自開催をしました。対象地区ごとの高齢化率、認知症割合のデータを提示し、認知症当事者・家族が気軽に寄れる場づくりの必要性について、地域の方々と共有しました。結果として地域主催事業「認知症♥予防応援 宮前交流カフェ」が立ち上り、平成 30 年 1 月より月 1 回ペースで開催されています。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

包括レベル地域ケア会議の中で日吉地区として 3 つの課題を抽出し、下田地域ケアプラザと連携して分科会形式で取組みました。事業としては団塊（及び周辺）世代を対象に開催したセミナー後のフォローアップの場を作り、「セカンドライフ用名刺作り」「認知症予防」テーマに開催しました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

民生委員・児童委員協議会定例会へ参加し、情報提供と共にコミュニケーションを重ねてきました。個別支援においても、地域での活動においても、顔の見える関係のなかで連携を取ってきました。

介護保険関係事業所とは、ケアマネジメントにおいては密に連絡を取り、事業などにも協力し合える関係となっています。

地域ケア会議を通して、上記の関係者のほか、医療関係者、地域住民(町内会・自治会、ボランティア団体など)、警察や、消防、学校関係などとの関係づくりも進んでいます。

② 実態把握

総合相談に対して、『困りごと』『疾患』『地域』など追加項目を加えてデータ収集を開始しましたが、データの収集が不十分で、まだ詳細な分析に至っていません。ただ、相談の傾向や地域の課題の傾向はおおむね把握しつつあります。

③ 総合相談支援

相談者の立場に立ち、当事者が主体的に課題を解決できるよう、適切な情報提供と助言等の支援に努めました。特に、健康状態の悪化や、緊急対応ケースには、相談内容を包括内で共有し、緊急性に配慮した支援を行いました。高齢者の家族全体の課題（障害、経済状況や環境の悪化など）に直面することが多くなり、その都度地区担当とともに検討し、状況に合わせた支援を展開してきました。地域ケア会議を活用して、他分野の機関とも連携して家族全体への支援スキルも向上しています。医療機関、福祉保健機関のサービス内容、各種制度についての理解も進み、より広い情報提供ができてきています。相談の際には、包括支援センターの業務内容の説明に心掛けています。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

成年後見制度の活用方法は、特にサポートネットや研修を活用して実務的な面の理解を深めました。法定後見の提案2件、任意後見の申し立て支援1件、区長申し立てまでの支援1件を行いました。サポートネットを通じて、専門職や市民後見人との関係づくりに努め、無料相談会や事業を通じて住民に制度を周知しました。

消費者被害の予防のために、自主事業において消費生活推進員の啓発講座を依頼、開催しました。昨年度は、エリア内での消費者被害や、「押し買い」などの報告を受けました。

② 高齢者虐待への対応

区の研修を通じて、指針やマニュアルに則り、適切な支援に努めました。虐待の早期発見・予防のために、相談時点で介護の適切さや介護者の負担などに注目して、相談や訪問を行いました。不適切な介護とみられる場合には、ケアマネジャーと共に介護状況や家族間の課題を把握し、調整、助言を行いました。昨年度は重篤な虐待に至ったケースはありませんでした。

虐待防止の啓発活動として、「虐待防止ハンドブック研修」を所内、所外で実施しました。

介護者支援としては、ケアマネジャー等と協力して個別に継続的な支援を行う他、「介護者のつどい」や「介護者教室」を開催し、エリア内外から多くの方に参加いただきました。

③ 認知症

認知症の本人と家族が地域で安心して生活できる地域づくりを進めました。昨年に引き続き近隣の中学校で認知症サポーター養成講座を開催しました。しかしながら、地域での見守り活動に発展させるには至っていません。講座を通じて、認知症キャラバン・メイトのモチベーションをあげ、協力関係の強化ができたことは重要なことでした。

介護者に対する支援として、個別には介護者の対応の仕方、専門の医療機関の情報提供や、介護者自身への精神的な支援を重視して行いました。また事業（「介護者のつどい」「介護者教室」など）による場の提供や情報提供にも努め、多くの方に参加をしていただきました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

地域住民向けの講座や相談会を開催し、包括支援センターの役割や介護保険制度、介護予防を地域に周知しました。又、地域団体（町内会関係、民生委員、ボランティアなど）との関係をより深めるための活動（定例会への参加、協働事業の開催など）を展開し、地域におけるネットワークを広め、地域活動交流、生活支援コーディネーターとともに地域力の向上を支援しました。

② 医療・介護の連携推進支援

協力医の協力を仰ぎ、地域のケアマネジャーを対象とした事例検討会を引き続き開催しました。そのことにより、医療・介護の連携推進に繋がられました。又、港北区高齢者支援ネットワークに参画し、研修会や検討会を通じて、三師会はもとより、ガンバ港北、訪問看護ステーション、区役所、ケアマネジャー、包括支援センターとの連携推進、強化を図りました。

③ ケアマネジャー支援

区役所との共催を含め、ケアマネジャー向けの研修会を行政サービス、ネットワーク構築、訪問看護事業所やMSW等との懇談会等をテーマ毎に開催し、ケアマネジャー全体のスキルアップを図りました。又、新任ケアマネジャー向けの情報交換会や意見交換会を開催し、日頃の業務に対する不安や質問を吸い上げ、新任ケアマネジャーが働きやすい環境を整える一助に貢献しました。そして、ケアマネジャー向けの必須媒体である「インフォーマル情報」の更新を行ない、周知しました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

港北区高齢者支援ネットワークによる研修会への参加や協力を図り、専門職種間のネットワーク構築を図りました。又、地域ケア会議（個別レベル）では、地域の課題を抽出し、参加者間での共通理解、情報の共有化を図りました。そして、地域ケア会議（包括レベル）では、大きく三つのテーマに分け（専門職と地域との連携、団塊世代の地域デビュー、地域に向けた認知症への理解の普及）各々の分科会でネットワーク作りや人材育成、普及・啓発活動を行ないました。尚、分科会で活動した内容については、全体会にて報告会を開催しました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

高齢者が住みなれた地域で安心して自立した生活を継続できるよう、本人の意思を尊重し、心身の状況、置かれている環境等に応じて、ケアマネジメントを行いました。又、本人ができることを共に考え、主体的な活動や意欲を高めることができるよう、実現可能な目標設定を意識してプランニングを行いました。介護予防計画書の作成、評価、必要に応じて計画書の見直しを利用者のニーズに合わせて柔軟に行い、利用者の自立意識の維持、向上に繋がるよう努めました。そして、地域における健康づくりや交流促進のためのサークル活動、ボランティア活動など介護保険以外の社会資源を把握し、情報を提供、活用に繋げてまいりました。加えて、行政機関、医療・保健・福祉関係者、地域関係者（民生委員・ボランティア）等と連携し、利用者の生活を地域で支えていくためのチームケアを推進してまいりました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

出張ミニ講座（相談会）、CP 主催の交流サロン、民生委員・ボランティアが主催するサロン・食事会にて、介護予防や健康維持・増進のための講座を実施しました。JAGESから日吉本町エリアの地区データを収集・分析後、顕在的・潜在的な地域課題を抽出し、また事業や相談の中で介護予防が必要な方に、介護予防教室や地域のサークル等への参加促進、情報提供を行いました。

元気なうちから介護予防をはじめて頂くきっかけ作りのために、介護予防教室を開催しました。会場はケアプラザ以外に市営住宅の集会所を利用して、介護予防体操・口腔ケア・栄養改善、フットケアの外部講師を依頼し実施しました。教室終了後も参加者が継続して介護予防活動が行えるよう、介護予防教室OB会やケアプラザ利用団体等を紹介しました。

認知症予防サロンのスリーA 日吉を継続させ、地域を住民同士で支え合う仕組み作りを支援しました。また、生活支援コーディネーターと協働でコグニサイズを実施し、介護予防・生活支援につなげられるようにアプローチしました。

介護予防教室OB会、ケアプラザや地域にある自主活動団体の活性化、介護予防に関するボランティア等の人材育成のために、日吉地区介護予防活動団体向けに対し、各団体同士の交流や意見交換会などのフォローアップ講座を行いました。

民生委員や保健活動推進委員、ボランティア団体等が主催する茶話会や食事会など、高齢者が集まる催しに参加し、介護予防事業の情報提供や認知症の講座を行いました。また、プレイパーク利用している方々と協働で、多世代交流できるように地域コーディネーターや育児支援をされている方々と話し合いをして具体的な取り組みに繋がると考えておりましたが、年代の交流については熟考が必要です。

5 その他

当ケアプラザでは、【育成】に重点を置いた取り組みを継続的に展開しています。

① 地域を育てる

- ・ 誰もが住みやすい環境づくり
- ・ 地域で支えあう（共助）仕組みづくり

② 人を育てる

- ・ 専門性の高いスタッフを現場（ケアプラザ）で育てる
- ・ 地域でインフォーマルな人材・資源を育てる

③ サービスを育てる

- ・ 人材育成がサービスの質を高める
- ・ 時代背景にあった適応性のあるサービスづくり

以下、地域ケアプラザ事業実績評価との相違部分

7 施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

施設関係法令、ケアプラザ基本協定に基づき、施設・設備の保守・管理を行いました。委託業者による定期的なメンテナンスだけでなく、職員で構成された事故防止対策委員会において、施設内の安全点検パトロールや各部門から挙がってきたヒヤリハット事例の検証、各種マニュアルの作成、見直しを行い、職員全体に施設管理意識を周知する役目を担いました。

利用者にとって快適な環境の維持のため、毎日の職員による10分間清掃などの小さな取り組みの積み重ねのほか、委託業者による日常清掃と定期清掃、設備の保守（冷暖房、給湯、自動ドア、消防設備など）を適切に遂行しました。その他、建築物・建築設備定期点検（自己点検及び業者による定期点検）を実施し、施設の状態把握に努め、経年劣化に伴う早期修繕の必要性を判断しました。修繕が必要な状況においては、速やかに修理・部品の交換等の保全措置を行うほか、大規模なものに関しては区と協議をした上で修繕を行いました。

また貸館利用者に対しては、団体登録時に施設利用に関する注意事項を文書と口頭にて説明するほか、年に1回開催される利用者説明会において、施設を安全に快適に利用していただくための注意喚起を行いました。

(2) 効率的な運営への取組について

多くの地域の方々にケアプラザを快適に、また有効利用して頂くために、指定管理事業（地域交流・包括支援センター・介護予防事業・生活支援体制整備事業）、介護保険事業（居宅介護支援、通所介護）それぞれの職員が、部門における専門職である前に、ケアプラザの職員であることを意識し、相互理解のもと、迅速かつ効率的に連携を密にした業務に努めました。

また各部門には勤続年数の長い信頼あるリーダー職員を配置することで、地域の方々、地域関係機関・団体と質の高い関係が構築され、それが部門間での協働事業に繋がり、結果的に部門ごとの、またケアプラザ全体の効率的な運営に繋がっています。

物理的な効率化への取り組みとしては、引き続き節電や節水、再生紙の活用などエネルギー資源への配慮にも取り組んだほか、消耗品や設備保守などにかかる経費の削減（消耗品選定、仕入れ業者選定等）にも努めながら、日常的な小さな取り組みの積み重ねから効率的な運営を目指しました。

相談件数が年々増加している包括支援センターにおいては、相談管理システムを導入したことで、書類が電子化されたという物理的な効果がある中で、具体的なケース対応等への効率化にまで昇華させられるようチームケアの強化も含め取り組んでいます。

(3) 苦情受付体制について

苦情対応に関しては、各部門に苦情受付担当者を置き、苦情解決責任者は所長が担当することで、速やかに且つ誠意を持って対応する体制を整えています。苦情対応マニュアルに基づき帳簿管理、記録管理を行い、解決に向けた取り組みを行うだけでなく、その後の再発防止や予防にも努めます。新たな対応などが必要な事項に関しては館内に概要を掲示するなど、経緯や対応など情報を公開し、透明性ある施設運営に努めました。

また第三者委員を複数名配置し連絡先を館内に掲示、施設だけでなく公的機関へも苦情の申し立てができる旨もお知らせし、窓口を広げる対応にも心がけました。

また施設利用者のニーズ把握には、意見箱の設置や利用者アンケートの実施のほか、利用者説明会の場において意見交換の時間を作り、直接要望や意見を頂く機会も作りました。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

防犯に関しては、まずは挨拶を重要と考え、施設に来館される方には、職員から積極的に声をかけるようにしています。ケアプラザ前の通りは通学路にもなっていることから、小学校からの「子ども100当番の家」登録要請を受諾し、子どもたちの通学中の安全にも地域の施設として協力しました。

防災に関しては、年2回以上消防訓練（通報、避難誘導、初期消火、AED訓練など※今年度より水害を想定した避難訓練も実施）を行うほか、近隣の地域防災拠点と連携し、拠点主催の地区防災訓練に参加しました。訓練内容の企画の段階から関わることで、ケアプラザが特別避難場所であることを地域に向け広く発信しました。

ケアプラザ内にて発生するデイサービス利用者、貸館利用者の急変等にも医療職である看護師が中心となり、救急対応を迅速に行いました。場合によっては救急隊を要請し、指示を受けつつ救急隊到着までの心肺蘇生、AEDの実用など救命活動を行いました。

(5) 事故防止への取組について

事故防止対策委員会を中心に職員全体に対してリスクマネジメント意識を持つよう、様々な取り組みを行いました。具体的にはヒヤリハット事例の検討やヒヤリハットシート、事故防止対策マニュアルの見直し作業を行いました。また研修委員会においてもリスクマネジメント、個人情報漏えいに関する研修会などを企画し、職員の事故防止に対する意識の向上を図りました。

また事故が発生した際に迅速な対応が取れるよう、様々な場面を想定した、事故発生後の対応マニュアルの作成にも取り組みます。適切な現場対応、関係機関への報告、事故が終息した後の原因究明、再発予防の検討をスムーズに遂行できる体制を整えました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

法人の「個人情報に対する基本方針」及び「保有する個人情報保護に関する規定」に基づき、個人情報に関する文書や電子媒体を管理します。また全職員に対し上記の基本方針及び規定に関する説明を入職時に行い、「秘密保持・個人情報保護に関する誓約書」の提出を義務付けています。

その後も繰り返し内部研修などで個人情報に関する取扱いについての指導を行うほか、日常業務の中で個人情報を取り扱う際の注意喚起を適宜行い、書類の管理のみならず、FAX やメール、郵送作業時のダブルチェックの徹底など細心の注意を払い業務にあたるよう指導徹底しました。

また電子媒体の個人情報等の管理に関しては、個々のパソコン内にデータは置かず、サーバーにて一括管理し、それぞれのパソコンやフォルダにはパスワードを設定し、外部からのウィルス侵入や盗難防止策を講じました。また介護システムや職員管理システムに関しては、セキュリティの高い外部サーバーにて作業を行い、ケアプラザ内にはできる限り情報を置かない環境設定にしています。

(7) 情報公開への取組について

法人の運営状況等の公開は法人ホームページにて公開し、地域の方が安心して施設を利用していただけよう透明性を重視した運営に努めました。また運営協議会を年2回開催し、地域の関係者の方々に運営状況を確認していただき、ご意見をいただく機会としています。説明に関しても口頭と手元資料だけでなく、スクリーンを使ったプレゼン方式にて「見える」「伝わる」説明を行いました。

個別のケースに関する記録文書などの情報に関しては、場合によってはご家族等に開示するケースもあることから、情報開示に必要な手順等を再確認し、必要な場合は当ケアプラザにおける情報開示規定に基づき迅速に対応できるよう準備しました。また28年度より地域密着型サービスである認知症対応型通所介護は、運営推進会議の開催が必須となり、ご家族をはじめ地域の関係者等で委員を構成しました。年2回の開催の中で、サービス実績内容や事業者が抱える課題を公表し、それに対しご意見を頂き、サービスの改善に努めました。

(8) 人権啓発への取組について

「横浜市人権施策基本指針」「緑峰会職員倫理規定」に基づき、人権尊重の視点を持って誰に対しても差別、偏見なく対応することが福祉保健の専門職としての基本姿勢であることを研修などの機会を持って、全職員に周知徹底しました。

多種多様な差別や偏見を受けてこられた当事者の思いを知り、積極的なコミュニケーションをとることで、人権問題への理解を深め、支援者としてのあるべき姿勢を見つめなおす機会としました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

リサイクルできるものは再利用に心がけ、職員全体にEco意識を持って環境に配慮するよう啓発しました。特に排出されたゴミに関してはヨコハマ3R夢プランの考えに基づき、分別ルールを守り、ゴミの減量化に努めています。

また省エネルギー対策として節水システムの導入、緑のカーテン事業への取り組みをはじめ、職員個々に日常的な節水・節電に努めるなど、毎月光熱水費のデータを集積、比較しながら施設全体として意識を高めました。

【介護保険事業】

●指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

常勤職員の3職種（保健師等1名、社会福祉士2名、主任介護支援専門員1名）及び非常勤職員の介護予防プランナーを適宜配置し、対応しました。

年度内に産休1名、主任介護支援専門員の異動および新任がありましたが、特に大きな混乱はなく対応できました。

《目標》

- 適切なアセスメントにより、個々の利用者がその人らしく自立した生活が継続できるように目標を立て、フォーマルなサービスだけでなく、インフォーマルなサービスも活用したケアプランを作成してまいりました。又、総合事業を考慮した目標設定を行ない、自立支援に取り組んでまいりました。
- 利用者だけでなく、それを支える家族（同居、別居問わず）への配慮、協力体制にも適宜働きかけを行い、利用者とその家族のニーズや目標が達成できるように支援しました。
- 引き続き、総合事業等、介護保険制度改正部分も考慮した、サービス利用や変更を行なっていき、利用者やその家族の混乱が起こらないように適宜対応をしました

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

●担当地域を越える地域に訪問・出張する場合、実費負担を頂くことはありませんでした。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 担当者が休みの際にも他の職員が臨機応変な対応ができるように、月1回のミーティングや随時ミーティングを行ない、利用者の状況把握を行いました。又、質の高いマネジメントを遂行していく為に研修等の自己研鑽の機会を確保しました。そして、認定結果が出るまでの暫定ケアプランの作成、及び介護サービス利用の調整を行い、どちらの認定結果が下りてもスムーズに対応出来るように居宅介護支援事業者等への連携を引き続き強化しました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
231	231	231	224	221	219
10月	11月	12月	1月	2月	3月
230	232	235	244	234	237

●居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者（常勤）：1名

介護支援専門員（常勤）：3名
（非常勤）：1名

《目標》

●在宅生活を送る利用者の心身の状況、そのおかれている環境、また家族（介護者）の希望等を勘案し、介護計画（ケアプラン）に基づく介護サービスの提供が確保されるよう、サービス事業者等と連携しながら在宅生活を支援しました。

●常に利用者の自立支援及び家族の立場に立った視点を持ち合わせながら、在宅生活全般にわたる支援ができるよう関係機関と連携し、チームケアの中核としてケアマネジメントを行いました。

●介護支援専門員としてケアマネジメントのプロセスを習熟し、利用者のニーズに応じて適切な社会資源の調整を図り、利用者の生活の質の向上に繋がるよう支援しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

●居宅介護支援については、利用者の負担（利用料）はありません。

●ただし、介護支援専門員が通常のサービス実施地域を越える地域に訪問・出張する必要がある場合には、その旅費（実費）の負担をお願いすることがあります。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

上記目標の実現に向けて、関係機関との勉強会をはじめ、スキルアップを目的とした研修や講座に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めました。またケアプラザ内の他部門（地域交流・地域包括支援センター・通所介護）と随時情報交換を行い、ボランティアや町会活動等の地域資源の把握に努める他、地域に潜在する課題を共有し、ケアプラザの役割としての地域支援にも関わって参りました。

また特定事業者として、24時間対応、困難ケースにも積極的に関わりながら、細やかな対応に心掛けたケアマネジメントを目指しました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
112	108	109	112	113	112
10月	11月	12月	1月	2月	3月
117	117	117	118	115	115

● 通所介護

《提供するサービス内容》

- 通所介護計画書の作成、相談援助業務
- 介護サービス（必要に応じ、移動・食事・排泄等の介助、見守り）
- 健康状態の確認 送迎、食事、入浴、レクリエーション

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分 ※処遇改善加算 I は含まれていません。

（要介護 1）	650 円
（要介護 2）	767 円
（要介護 3）	886 円
（要介護 4）	1,004 円
（要介護 5）	1,122 円

- 食費負担 700 円
- 入浴加算 54 円
- サービス提供体制加算 20 円

※行事や教養娯楽に係る経費 実費

H29 年度の実費請求実績：なし

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9：50 ～ 16：00

《職員体制》

生活相談員	2 名（兼務含む）
介護職員	16 名
看護職	5 名
言語聴覚士	1 名（兼務含む）
送迎運転手	7 名

《目標に対する成果等》

個々のケアプランや通所介護計画書に基づき、自立支援の視点を軸に、ひとり 1 人状態に合ったサービスを提供することができました。また各職種（介護・看護・運転）を対象とした内部研修を始め、外部の研修にも参加してもらい知識や技術の習得等、スタッフの質の向上・業務の改善にも役立ちました。研修後の情報共有にも力を入れたことと、現在使用中の PC 上のシステムを改善することで、日々の記録や入力に掛ける時間を大幅に削減できたことが大きな成果となっています。

《その他（特徴的な取組、PR 等）》

初詣やお花見、盆踊り、運動会、餅つき等、季節に合った大型レクは大変喜ばれています。また手作りおやつ等も年に数回実施し好評です。

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
732	814	788	799	831	787
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
768	751	681	674	680	771

● 介護予防通所介護・第1号通所事業

《提供するサービス内容》

- 通所介護計画書の作成、相談援助業務
- 介護サービス（必要に応じ、移動・食事・排泄等の介助、見守り）
- 健康状態の確認 送迎、食事、入浴、レクリエーション

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分

（要支援1）	1,951円
（要支援2）	3,998円

※要支援2で週1回（月4～5回）の利用の場合は、要支援1の料金と同等額

※上記料金は処遇改善加算Ⅰ、及びサービス提供体制強化加算Ⅰイを含む

- 食費負担 700円

※行事や教養娯楽に係る経費 実費 H29年度の実費請求実績：なし

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9:50 ～ 16:00

《職員体制》

生活相談員	2名（兼務含む）
介護職員	16名
看護職	5名
言語聴覚士	1名（兼務含む）
送迎運転手	7名

《目標に対する成果等》

個々のケアプランや通所介護計画書に基づき、自立支援の視点を軸に、ひとり1人状態に合ったサービスを提供することができました。また各職種（介護・看護・運転）を対象とした内部研修を始め、外部の研修にも参加してもらい知識や技術の習得等、スタッフの質の向上・業務の改善にも役立ちました。研修後の情報共有にも力を入れたことと、現在使用中のPC上のシステムを改善することで、日々の記録や入力に掛ける時間を大幅に削減できたことが大きな成果となっています。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

初詣やお花見、盆踊り、運動会、餅つき等、季節に合った大型レクは大変喜ばれています。また手作りおやつ等も年に数回実施し好評です。

《利用者実績（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
60	64	72	48	70	60
10月	11月	12月	1月	2月	3月
59	56	64	64	61	61

●（介護予防）認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 認知症対応型通所介護計画書の作成、相談援助業務
- 介護サービス（必要に応じ、移動・食事・排泄等の介助、見守り）
- 健康状態の確認 送迎、食事、入浴、レクリエーション

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分 ※処遇改善加算 I は含まれていません。
 - （要介護1） 1,101円
 - （要介護2） 1,153円
 - （要介護3） 1,263円
 - （要介護4） 1,375円
 - （要介護5） 1,486円
- 食費負担 700円
- サービス提供体制加算 20円
- 入浴加算 55円
- 若年性認知症加算 72円

※行事や教養娯楽に係る経費 実費 H29年度の実費請求実績：なし

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9:50 ~ 16:00

《職員体制》 生活相談員 2名（1名は介護職と兼務）
 介護職員 6名
 看護職員 5名
 送迎運転手 7名

《目標に対する成果等》

個々の認知症状を正しく理解し、日常生活における機能低下の予防に取り組みました。本人の持っている能力や残存機能を見つけ出し、生活に結びつけた活動として支援することで、日常生活の質を維持・向上させることができました。また個々の利用者・家族の意向を尊重し、その人らしさを常に大切にしながらサービスを提供することができました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

専任のスタッフを配置し、利用者個々の好みと残存能力を考慮しながら、絵の具を使用した塗り絵や編み物などの作品に取り組んでいます。また作品だけではなく、下膳ができそうな方を対象に、昼食後の食器を運んでもらうなどの取り組みもしています。種類別に食器の写真を撮り、まずは写真で練習をするなど工夫をしています。もちろんうまくいかないことも多々ありますが、今後も継続していきます

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
104	126	123	135	152	145
10月	11月	12月	1月	2月	3月
157	150	136	141	143	151

平成29年度「横浜市日吉本町地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)〈地域活動〉

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	15,325,756	202,733	15,123,023	15,123,023	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	
指定管理料充当 事業	0		0	151,000	151,000	自主事業収入
自主事業収入			0		0	
雑入	0	0	0	96,132	96,132	
印刷代	0		0	21,517	21,517	コピー代
自動販売機手数料	0		0	74,085	74,085	自販機手数料
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	なし
その他(指定管理料充当)	0		0	530	530	公衆電話使用料
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	3,990,000		3,990,000	3,990,000	0	
その他(提案時控除 法人負担分)	0		0	0	0	
収入合計	19,315,756	202,733	19,113,023	19,360,155	247,132	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,689,000	0	10,689,000	8,913,624	1,775,376	
本俸	7,234,316		7,234,316	6,187,334	1,046,982	基本給
社会保険料	715,332		715,332	645,926	69,406	健康保険、雇用保険、厚生年金等
手当計	2,500,515		2,500,515	2,021,043	479,472	調整手当、期末手当、住宅手当等
健康診断費	27,621		27,621	41,013	13,392	健康診断受診料
勤労者福祉共済掛金	15,264		15,264	5,588	9,676	共済掛金
退職給付引当金繰入額	0		0	12,720	12,720	退職給付引当金
その他	195,952		195,952	0	195,952	なし
事務費	2,120,727	0	2,120,727	2,140,679	19,952	
旅費	33,220		33,220	11,211	22,009	会議、事業等交通費
消耗品費	277,252		277,252	416,595	139,343	印刷用紙、文具類、洗剤類等
会議諸費	9,632		9,632	0	9,632	なし
印刷製本費	34,533		34,533	13,540	20,993	名刺印刷代、封筒作成代
通信費	256,442		256,442	335,753	79,311	電話代、郵送代
使用料及び賃借料	10,000	0	10,000	9,600	400	
横浜市への支払分	10,000		10,000	9,600	400	目的外使用料(自販機)
その他	0		0	0	0	なし
備品購入費	0		0	1,129,432	1,129,432	清掃備品類、足ふきマット、トナー、かき氷機、ラジカセ等
図書購入費	0		0	0	0	書籍代
施設賠償責任保険	96,014		96,014	0	96,014	施設賠償責任保険料
職員等研修費	6,542		6,542	8,510	1,968	研修費及び交通費
振込手数料	647		647	215	432	手数料
リース料	701,404		701,404	0	701,404	なし
手数料	0		0	0	0	なし
地域協力費	15,000		15,000	0	15,000	なし
その他	680,041		680,041	215,823	464,218	車両燃料費、訪問時駐車料金、職員被服費、諸会費等
事業費	267,818	0	267,818	368,481	100,663	
運営協議会経費	42,000		42,000	11,710	30,290	予算：指定額
指定管理料充当 事業	225,818		225,818	356,771	130,953	自主事業経費
管理費	5,383,091	249,384	5,632,475	5,262,218	370,257	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算：指定額
光熱水費	2,463,093	0	2,463,093	2,662,391	199,298	光熱水費
電気料金	886,574		886,574	959,993	73,419	
ガス料金	183,185		183,185	206,953	23,768	
水道料金	1,393,334		1,393,334	1,495,445	102,111	
清掃費	1,109,718		1,109,718	1,113,257	3,539	日常清掃費
修繕費	474,000	249,384	723,384	709,087	14,297	予算：指定額
機械警備費	131,871		131,871	131,871	0	機械警備費
設備保全費	1,109,424	0	1,109,424	538,287	571,137	
空調衛生設備保守	62,115		62,115	62,115	0	空調設備保守料
消防設備保守	47,780		47,780	47,780	0	消防設備保守料
電気設備保守	114,671		114,671	114,671	0	電気設備保守料
害虫駆除清掃保守	23,890		23,890	23,890	0	害虫駆除費
駐車場設備保全費	0		0	0	0	なし
その他保全費	860,968		860,968	289,831	571,137	自動ドア、ガス給湯器、緑地管理、AED保守料
共益費	0		0	0	0	なし
その他	94,985		94,985	107,325	12,340	ゴミルート回収費
公租公課	855,120	0	855,120	713,089	142,031	
事業所税			0		0	
消費税	855,120		855,120	713,089	142,031	消費税
印紙税			0		0	
その他()			0		0	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ズ対応費			0		0	
支出合計	19,315,756	249,384	19,565,140	17,398,091	2,167,049	
差引	0	452,117	452,117	1,962,064	2,414,181	

自主事業費収入	225,818		225,818	0	225,818	予算：指定管理料に含む
自主事業費支出	225,818		225,818	356,771	130,953	自主事業経費
自主事業収支	0	0	0	356,771	356,771	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0		0	74,085	74,085	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	9,600	9,600	使用料(横浜市への支払分)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	64,485	64,485	

平成29年度「横浜市日吉本町地域ケアプラザ」
 収支予算書及び報告書(特別会計)〈包括・介護予防・生活支援体制整備〉

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	29,233,000	921,586	28,311,414	28,311,414	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000	0	5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	
指定管理料充当事業(包括)	0		0	36,800	36,800	自主事業収入
指定管理料充当事業(介護予防)	0		0	0	0	なし
指定管理料充当事業(生活支援)	0		0	65,900	65,900	自主事業収入
自主事業収入			0		0	
雑入	0	0	0	95,603	95,603	
印刷代	0		0	21,518	21,518	コピー代
自動販売機手数料	0		0	74,085	74,085	自動販売機手数料
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	なし
その他(指定管理充当分)	0		0	0	0	なし
その他(提案時控除 法人負担分)	190,819		190,819	190,819	0	
収入合計	35,363,819	921,586	34,442,233	34,640,536	198,303	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	31,546,000	0	31,546,000	24,519,475	7,026,525	
本俸	13,229,205		13,229,205	10,187,070	3,042,135	基本給
社会保険料	4,132,366		4,132,366	3,012,322	1,120,044	健康保険、雇用保険、厚生年金等
手当計	13,525,706		13,525,706	10,783,654	2,742,052	調整手当、期末手当、住宅手当等
健康診断費	35,991		35,991	42,687	6,696	健康診断受診料
勤労者福祉共済掛金	507,210		507,210	61,262	445,948	共済掛金
退職給付引当金繰入額	0		0	432,480	432,480	退職給付引当金
その他	115,522		115,522	0	115,522	なし
事務費	1,178,182	0	1,178,182	1,838,642	660,460	
旅費	51,440		51,440	21,626	29,814	会議、訪問等交通費
消耗品費	146,953		146,953	130,523	16,430	印刷用紙、文具類、洗剤類等
会議備い費	0		0	0	0	なし
印刷製本費	56,781		56,781	11,340	45,441	名刺印刷代、封筒作成代
通信費	133,892		133,892	334,571	200,679	電話代、郵送代
使用料及び賃借料	10,000	0	10,000	9,600	400	
横浜市への支払分	10,000		10,000	9,600	400	目的外使用料(自販機)
その他	0		0	0	0	なし
備品購入費	24,258		24,258	1,065,318	1,041,060	清掃備品類、足ふきマット、トナー等
図書購入費	3,000		3,000	0	3,000	書籍代
施設賠償責任保険	25,523		25,523	0	25,523	施設賠償責任保険料
職員等研修費	92,520		92,520	82,030	10,490	研修費及び交通費
振込手数料	1,000		1,000	863	137	手数料
リース料	547,496		547,496	0	547,496	なし
手数料	1,000		1,000	0	1,000	なし
地域協力費	0		0	0	0	なし
その他	84,319		84,319	182,771	98,452	車両燃料費、訪問時駐車料金、職員被服費、諸
事業費	1,237,273	0	1,237,273	908,488	328,785	
協力医	630,000		630,000	294,000	336,000	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	147,273		147,273	155,849	8,576	自主事業経費
指定管理料充当事業(介護予防)	151,000		151,000	157,007	6,007	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	301,632	7,368	予算:指定額
管理費	1,402,364	0	1,402,364	1,216,133	186,231	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算:指定額
光熱水費	654,747	0	654,747	707,724	52,977	光熱水費
電気料金	235,672		235,672	255,188	19,516	
ガス料金	48,695		48,695	55,013	6,318	
水道料金	370,380		370,380	397,523	27,143	
清掃費	294,986		294,986	295,927	941	日常清掃費
修繕費	126,000		126,000	5,817	120,183	予算:指定額
機械警備費	35,054		35,054	35,054	0	機械警備費
設備保全費	266,328	0	266,328	143,082	123,246	
空調衛生設備保守	16,510		16,510	16,510	0	空調設備保守料
消防設備保守	12,700		12,700	12,700	0	消防設備保守料
電気設備保守	30,481		30,481	30,481	0	電気設備保守料
害虫駆除清掃保守	6,350		6,350	6,350	0	害虫駆除費
駐車場設備保全費	0		0	0	0	なし
その他保全費	200,287		200,287	77,041	123,246	自動ドア、ガス給湯器、緑地管理、AED保守料
共益費	0		0	0	0	なし
その他	25,249		25,249	28,529	3,280	ルート回収費
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0		0	
消費税	0		0		0	
印紙税			0		0	
その他()			0		0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ズ対応費			0		0	
支出合計	35,363,819	0	35,363,819	28,482,738	6,881,081	
差引	0	921,586	921,586	6,157,798	7,079,384	

自主事業費収入	607,273		607,273	102,700	504,573	予算:指定管理料に含む
自主事業費支出	607,273		607,273	614,488	7,215	自主事業費
自主事業収支	0		0	511,788	511,788	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0			74,085		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出	0			9,600		使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0			64,485		

平成 29年度 地域ケアプラザ収支報告書<介護保険事業分>

施設名:横浜市日吉本町地域ケアプラザ

平成29年4月1日～平成30年3月31日
(単位:千円)

	科目	介護予防支援	居宅介護支援	通所介護	予防通所介護・ 第1号通所介護	認知症対応型 通所介護
収入	介護保険収入	2759	19472	78110	3625	22988
	その他	4837	279		7219	804
	介護予防ケアマネジメント費	4837				
	認定調査料		279			
	利用料等				7219	804
	その他					
	収入合計(A)	7596	19751		88954	23792
支出	人件費		14721		58820	10896
	事務費		1625		10091	2423
	事業費		924		11833	3091
	管理費					
	その他	0	222		1258	105
	利用者負担軽減額					
	消費税					
	介護予防プラン委託料					
	減価償却費				838	
	その他		222		420	105
	支出合計(B)	0	17492		82002	16515
	収支 (A) - (B)	7596	2259		6952	7277

※ 「介護予防支援」について、包括支援センター職員が兼務のため、経費は包括に計上。

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者教室	【対象者】 地域住民 【目的】 介護者支援 【実施内容等】 4月「地域ケアプラザ・地域包括支援センターの紹介と介護予防について」 7月「上手なオムツの選び方使い方」 10月「施設見学」 1月「就活セミナー・高齢者施設の選び方」	4月 7月 10月 1月 計4回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護者のつどい	【対象者】 介護している方・介護経験者 【目的】 介護者のサポート、情報共有、介護疲れによる虐待等の防止 【実施内容等】 参加者による介護経験を語り、共有する	6月・9月・12月 計3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域ケア会議 (個別・包括レベル)	【対象者】 地域住民、介護事業所、医療機関、学校、警察、消防 【目的】 地域課題の共有と課題解決に向けた取り組みへのきっかけ作り 【実施内容等】 地域関係者（地域住民、医療・福祉・保健関係者等）と共に、生活課題のある個別ケースや地域課題について、共有、検討する場 目的や課題に合わせて《個別》《包括レベル分科会》《包括レベル全大会》と形態を変えて開催する。	個別 1回（3月） 全大会 1回（3月）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	【対象者】 中学1年生 【目的】 認知症について正しく理解し、認知症の方への対応方法を学び、職業体験に向けての心構えを持ってもらうとともに、地域の認知症の方や家族に対して暖かく見守ることができるようになること 【実施内容等】 ・「病気の理解」「認知症の方への接し方」 ・寸劇 ・振返り	1回 1月

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
コグニサイズ	<p>【対象者】 地域住民（主に高齢者）</p> <p>【目的】 認知症予防の場を継続的に作っていくこと</p> <p>【実施内容等】 準備体操（ストレッチ）、コグニサイズ、茶話会</p>	毎月第2金 (計12回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
転倒骨折予防 もみじ会交流会	<p>【対象者】 高齢者</p> <p>【目的】 転倒予防の具体的な方法を実践を通して学び、転びにくい体づくりを目的に隔週で活動しているメンバー間の交流の機会を作ること</p> <p>【実施内容等】 茶話会、はまちゃん体操（座位編）、レクリエーション</p>	1月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
団塊世代地域デビュー分科会 「フォローアップ講座」	<p>【対象者】 充実したセカンドライフ実現の秘訣とは」セミナーに参加された方</p> <p>【目的】 これから定年を迎える（迎えた）方が健康を保ち、まずは閉じこもらない生活を送ってもらうこと</p> <p>【実施内容等】 5月：地域デビューのファーストステップ（名刺作り・ワークショップ） 6月：地域で実現！豊かなセカンドライフ（脳トレエクササイズ、今後の活動のアイデア出し）</p>	5月 6月 (計2回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
コスモ日吉健康 教室支援	<p>【対象者】 地域住民</p> <p>【目的】 希薄になっている居住者同士の顔の見える関係づくり</p> <p>【実施内容等】 コグニサイズ、スリーA、意見交換</p>	11月

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
宮前交流カフェ支援	<p>【対象者】 認知症当事者家族・地域住民</p> <p>【目的】 認知症の方にとって、より身近な地域として支え合う仕組みが求められている中、認知症の方と地域住民が気軽に交流する場を作ること</p> <p>【実施内容等】 1月：認知症への理解 阿部先生（日吉慶友クリニック副院長）、歌 2月：いきいきと暮らす食事のヒント 加藤先生（管理栄養士） 保育園児との交流会 3月：就活について、スリーA（プラザ職員）</p>	<p>1月 2月 3月 計3回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
買物送迎サービス	<p>【対象者】 高齢者</p> <p>【目的】 買物は高齢者の外出機会を多く占めており、買物に行けないことにより外出頻度が低下し、個人のいきがいに影響を与える可能性が高く、優先的に代行サービス検討をしていく機会にすること</p> <p>【実施内容等】 デイサービス送迎車を2台使用し、近隣スーパーまでの往復移送し買物を実施。</p>	<p>8月</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ほっとスペースひよし	<p>【対象者】 高齢者</p> <p>【目的】 いきいきライフセミナーのOB会支援の位置づけでもある気軽なサロンで、高齢者の外出支援となり他者との交流をはかる場を提供する</p> <p>【実施内容等】 レクリエーション全般や講座、サロン</p>	<p>第4水曜日（計12回）</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
スリーA 日吉	<p>【対象者】 地域住民、高齢者</p> <p>【目的】 1. スリーA ボランティア養成講座終了後の活動の位置づけとして、ボランティア育成及び支援を行う 2. レクリエーションを通じて引きこもり、認知症の方でも参加しやすい活動を目指し、地域のつながり作りの場を作る</p> <p>【実施内容等】 脳活性化リハビリゲームと認知症予防</p>	<p>第3木曜日（計12回）</p>

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
男の健足	<p>【対象者】 50歳以上男性</p> <p>【目的】 50歳以上の男性地域近隣住民の方に対して自発的な活動参加を促し、個人の健康増進及び地域の社会参加につながるようフットケアを通じて前向きに取り組めるよう支援する</p> <p>【実施内容等】 フットケア</p>	1~3月 1回/月計3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
放課後くらぶ スマイル	<p>【対象者】 障がい児</p> <p>【目的】 幼少期から学齢期の間転落や、交通事故により高次脳機能障害と診断された方々への地域での支援を行なうこと</p> <p>【実施内容等】 レクリエーション+おやつ</p>	月1回 (第3金曜日) 11回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
にじいろ 支援	<p>【対象者】 障がい児</p> <p>【目的】 幼少期から学齢期の間転落や、交通事故により高次脳機能障害と診断された方々への地域での支援を行なうこと</p> <p>【実施内容等】 手芸 リリアン編み</p>	毎月第2土曜日 10回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ウォーキング くらぶ 「たんぽぽ」 支援	<p>【対象者】 高齢者</p> <p>【目的】 高齢者の方の足腰を中心とした運動機能や心肺機能維持・向上を目的に無理なく安全に楽しみながら行なうことができるウォーキングくらぶのOB会支援</p> <p>【実施内容等】 ウォーキング</p>	第3木曜日 12回

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
精神サロン 「かもみいる」	【対象者】 障がい者 【目的】 心病む方の地域での居場所づくり 【実施内容等】 茶話会など	第3水曜日 12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
星空列車 支援	【対象者】 障がい者 【目的】 仕事以外に身近な地域で幼なじみの仲間と「自らしたいこと」を楽しく実現していくこと 【実施内容等】 余暇活動	5月 7月 9月 11月 3月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
パパの教室 (パパの赤ちゃん会) (パパと体操)	【対象者】 父親と乳幼児 【目的】 乳幼児にできる手遊び歌を知ってもらい、パパ同士の情報交換をすることで、より良い子育てのきっかけにしようこと 【実施内容等】 乳幼児と一緒に体操	11月 1月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
からふる	【対象者】 障がい児 【目的】 当事者団体（地域訓練会）の受け皿として引き続き発展的な活動に繋げていくため、地域活動やボランティアとの協働により会の活性化と負担軽減を目指すこと 【実施内容等】 外出などの余暇活動	4月

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
よこはまシニアボランティアポイント登録研修会	<p>【対象者】 高齢者</p> <p>【目的】 65歳以上の横浜市民を対象によこはまシニアボランティアポイントの登録研修会を下記のとおり開催し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつまでもアクティブに活動したい ・仲間を増やしたい ・社会に貢献したい <p>方のボランティア活動意欲の向上を図る</p> <p>【実施内容等】 講座</p>	6月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
にこにこ広場	<p>【対象者】 乳幼児と家族</p> <p>【目的】 育児支援に携わっている関係機関・団体同士が交流し、新たな事業展開を模索していくこと</p> <p>【実施内容等】 ベビーマッサージ、身長・体重測定、読み聞かせ、手づくりおもちゃや・絵本の紹介、パネルシアター、エプロンシアター、手・足型スタンプ</p>	7月 11月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
外出支援ボランティア講座	<p>【対象者】 地域一般</p> <p>【目的】 介助の基本・送迎ボランティアの基本を知り、新たな担い手を探す</p> <p>【実施内容等】 ボランティア保険について 車いす体</p>	7月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
こうほくなつとも	<p>【対象者】 障がい児</p> <p>【目的】 夏休み期間中に障がいのある子どもたちに多様な経験をする機会を提供する。また地域活動ホーム等関係機関と協働で実施することにより支援体制づくりを促進すること</p> <p>【実施内容等】 交流会、調理レク、竹工作、外出</p>	7月 8月

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
プラザ文化祭	<p>【対象者】 地域一般</p> <p>【目的】 貸し館登録団体の活動披露及び交流の機会とし、ボランティア活動の輪を広げてもらうこと</p> <p>【実施内容等】 ◆出演団体（19団体）演奏、ダンス、民舞、空手、詩吟 ◆作品展示 墨彩画、絵手紙、イラスト、習字</p>	9月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
こうほくからふる	<p>【対象者】 障がい児</p> <p>【目的】 夏休み期間に区域事業として実施している「こうほく・なつとも」への参加を通して、余暇支援活動のニーズの高さを感じるとともに、より身近な地域においての活動・支援を実現すること</p> <p>【実施内容等】 外出余暇</p>	9月 12月 2月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
秋桜祭	<p>【対象者】 地域一般</p> <p>【目的】 『地域に根ざしたケアプラザ』をスローガンに、より多くの地域の方々にケアプラザに足を運んでもらえるきっかけにすること。また地域の方々とケアプラザスタッフとの交流の機会にすること。</p> <p>【実施内容等】 ・模擬店・バザー・イベント</p>	10月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
しらゆり会と日吉子育てグループ交流会	<p>【対象者】 障がい者 子育て世代</p> <p>【目的】 しらゆり会のメンバーと日吉地区内で活動している子育てグループとの交流の輪を広げてもらうこと</p> <p>・準備体操 ・玉入れ・かけっこ・パン食い競争・民謡、歌・カードプレゼント</p>	10月

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
育児講座	<p>【対象者】 未就学児</p> <p>【目的】 様々な方向からサポートしていき、育児の相談や情報交換ができるママ友づくりのきっかけになること</p> <p>【実施内容等】 リズムで遊ぼう</p>	12月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
書道教室	<p>【対象者】 小学生（3～6年生）</p> <p>【目的】 姿勢を正しく集中力を養うきっかけにしてもらうこと</p> <p>【実施内容等】 書道</p>	12月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てサポートシステム 入会説明会	<p>【対象者】 地域一般</p> <p>【目的】 地域の中で子どもを預けたり、預かったりすることで人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援をめざす。</p> <p>【実施内容等】 登録説明会</p>	3月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出張ミニ講座	<p>【対象者】 地域一般</p> <p>【目的】 日吉地区の方々にケアプラザを知っていただくこと。また福祉保健に関する講座等をおこない、地域の高齢者が集まる機会を設けることで地域福祉・地域連携の向上を図ること</p> <p>【実施内容等】 口腔ケア（歯科衛生士） 健康体操（運動講師） スリーA 地域包括職員</p>	7月、9月、11月 計3回

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
港北区高齢者虐待防止事業 日吉地区通所介護事業所向けハンドブック研修	<p>【対象者】 介護保険 通所介護事業所 職員</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止の取り組みへの啓発 ・介護保険サービス従事者を対象に港北区高齢者虐待ハンドブックを通して、高齢者虐待における連携と対応の仕方を共有する ・包括と事業所、および事業所間の顔の見える関係の構築 <p>【実施内容等】</p> <p>ハンドブック研修及び懇談会</p>	6月 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域ケア会議 (専門職と地域のネットワーク構成分科会)	<p>【対象者】 地域住民、介護保険事業所、医療機関</p> <p>【目的】 地域の専門職と住民、ケアプラザの顔の見える関係づくり</p> <p>【実施内容等】</p> <p>日吉本町、下田町、箕輪町各エリアで実施。 住民組織、各機関の活動の共有と各地域の課題の共有</p>	7月、11月、3月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
事例検討会	<p>【対象者】 ケアマネジャー</p> <p>【目的】 事例検討を通じて、ケアマネジャーのスキルアップ、顔の見える関係作り。</p> <p>【実施内容等】</p> <p>事例検討会</p>	5月、7月、9月 11月、1月、3月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
主任ケアマネジャースキルアップ研修	<p>【対象者】 主任ケアマネジャー</p> <p>【目的】 主任ケアマネジャーを中心に、ケアマネジャー全体のスキルアップを図ることを目的とする。</p> <p>【実施内容等】</p> <p>課題整理総括表を用いて、スーパーバイザーとバイジーに分かれ、ロールプレイを行なう。</p>	11月 1回

平成29年度 自主事業報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
男のセカンドライフカレッジ (下田地域ケアプラザ共催)	【対象者】 日吉地区にお住いの70歳までの男性 【目的】 ① これから定年を迎える（迎えた）方が健康を保ち、自宅に閉じこもることなく充実した生活を送ってもらう事により、支援が必要な人にしないこと ② 閉じこもらない生活を継続し、将来的には地域の担い手になってもらうこと 【実施内容予定】 セカンドライフセミナー、コーヒーの淹れ方、ジム体験、町歩き、上手なお金の使い方などを専門講師に依頼	平成30年度 4月～6月 (計6回) 開催予定

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティアフォローアップ研修	【対象者】 地域で活動されているボランティア 【目的】 体操やサロンなどで指導的に役割を持っているボランティアの方の活動支援 【実施内容予定】 介護予防体操	平成29年5月、平成30年1月計2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数

事業名	目的・内容	実施時期・回数

平成29年度 自主事業収支報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	①主な対象者	自主事業決算額						
	②参加人数	総経費	収入			支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
からふる	障がい児	0	地活					
	15名		包括					
	無料		介護					
			生活					
よこはまシニアボランティアポイント登録研修会	地域一般	0	地活					
	15名		包括					
	無料		介護					
			生活					
外出支援ボランティア講座	地域一般	0	地活					
	16名		包括					
	無料		介護					
			生活					
こうほく☆なつとも	障がい児	0	地活					
	16名		包括					
	1回1000円		介護					
			生活					
しらゆり会と日吉子育てグループ交流会	障がい者、子育て	0	地活					
	45名		包括					
	無料		介護					
			生活					
育児講座	未就学児	0	地活					
	22名		包括					
	無料		介護					
			生活					
子育てサポートシステム入会説明会	地域一般	0	地活					
	61名		包括					
	無料		介護					
			生活					
認知症サポーター養成講座	中学生・事業者	0	地活					
	354名		包括					
	無料		介護					
			生活					
介護者のつどい	地域一般	0	地活					
	21名		包括					
	無料		介護					
			生活					

事業ごとに「自主事業別計画書単表」に記載してください。欄が足りない場合はシートごとコピーして使用ください。

平成29年度 自主事業収支報告書

横浜市日吉本町地域ケアプラザ

事業名	①主な対象者	自主事業決算額						
	②参加人数	総経費	収入			支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
介護者教室	地域一般	0	地活					
	115名		包括					
	無料		介護					
			生活					
地域ケア会議 (専門職と地域のネットワーク構成科会)	地域一般、関係機関	1731	地活					
	51名		包括	1731			1731	
	無料		介護					
			生活					
出張ミニ講座	地域一般	15700	地活					
	述べ55名		包括	15700	0	0	15700	0
	無料		介護					
			生活					
事例検討会	ケアマネジャー	574	地活					
	述べ90名		包括	574	0	0	0	574
	無料		介護					
			生活					
港北区高齢者虐待防止事業 日吉地区通所介護事業所向けハンドブック 研修(下田地域ケアプラザ包括と合同)	事業所	920	地活					
	12名		包括	920	0	0	0	920
	無料		介護					
			生活					
地域ケア会議(全体会・個別レベル)	地域一般、関係機関	23437	地活					
	59名		包括	23437	0	0	0	23,437
	無料		介護					
			生活					
主任ケアマネジャースキ ルアップ研修	主任ケアマネジャー	2216	地活					
	26名		包括	2216	0	0	2216	0
	無料		介護					
			生活					
男のセカンドライフ カレッジ	70歳までの男性	4622	地活					
	20名程度		包括		0	1200	0	0
	6回4,800円		介護					
			生活	3422				4622
星空列車 支援	障がい者	0	地活					
	40名		包括					
	無料		介護					
			生活					

